

あわじ荘だより

もちつき大会♪



令和5年12月20日、年末恒例もちつき大会を開催。新しい1年を迎えるわくわくした気持ちが伺えました。

年頭所感

次長兼総務課長 生田修一

年始から能登半島地震や羽田空港航空機衝突事故、北九州市食堂街大火など、立て続けに災害が発生しています。災禍に遭われた方々には心からお見舞い申し上げます。また、海上保安庁の航空機は能登半島地震における被災地支援に向かう最中だったとのこと、乗員5名が使命を果たせず亡くなられたのは心が痛みます。

そのなかで、日本航空機の乗員乗客全員が脱出し無事であったことは、乗員の優れた判断と乗客の冷静な対応のほかなりません。乗員には新人もおり、乗客には幼児や車いすの方も含まれていたと聞きます。緊急脱出というキャリアで一度あるかないかどうかの事態に対して、迅速に判断対応し完璧な仕事を成し遂げた背景には、絶え間ない厳しい訓練と、安全を支えるシステムがあったことでしょう。また、その後の空港機能停止・再開に伴う交通機関や宿泊機関等の調整は、想像を絶するものがあるに違いありません。

能登半島地震では、最寄り地域での二次避難、福祉避難所等への1.5次避難、安全までインフラが機能している地域への二次避難が続いています。淡路島の4倍という地域で、介護福祉を含め生活を支えるエッセンシャルワーカーが、自らが被災者でありながらも、今でもプロフェッショナルな仕事を続けていることに敬意を表します。

今回の災害では、神戸市役所からも応援が入りましたが、危機管理室の渡邊智明さんの報告では「阪神・淡路大震災での経験は役に立たなかった」と言うのです。29年前の神戸では、避難所を出来るだけ集約し、役所で取り切った効率的な避難所運営が至上命題だったのに対し、今回では、近所同士つながりが深く、地域の方だけで集まった小規模な避難所の方が、むしろ安心できるという話です。

昨年、地域の方の集まりに向向した際、高齢者でも角を矯めて牛を殺すことなへ、「きょういく」「きょうよう」「ちよきん」が必要だと話をしました。小さな欠点を直そうとするのではなく、きょういく〓今日行くところきょうよう〓今日用があることちよきん〓貯筋することを勧めました。

「苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。」平成23年3月22日 気仙沼市立階上中学校 梶原祐太さん 卒業式答辞より

各街のご様子

ホーム喫茶、敬老祝賀会、秋祭り、ガーデニング、カラオケ、クリスマス会、餅つき大会、新年会など、日々の生活のなかで様々な活動を行いました。

北の街



ショートステイ

ショートステイの利用者様にも様々な行事に参加していただき、賑やかな雰囲気味わっていただいています。



南の街



ほがらかデイサービス

昨年7月～12月までの約半年間、兵庫県立淡路景観園芸学校の先生方と園芸療法を実施しました。週に1回、水耕栽培のバジルやルッコラ、二十日大根の種まきから収穫までの過程を通じて、利用者の皆様はともに励まし合い、楽しんで取り組まれ、たくさん笑顔も見られていました。



リハビリデスマイル

令和5年9月、敬老祝賀会にて長寿祝いで百寿の門出でもある「白寿(はくじゅ)」を盛大にお祝いしました。

いつまでも笑顔でお元気に過ごすことができますように、引き続きご支援させていただきます。



ノーリフティングケア(持ち上げない介護)の取り組みについて

パート3

あわじ荘では「利用者様への安心で安全な介助の提供」と「介助者の腰痛ゼロ」を目指してノーリフティングケアに取り組んでいます。福祉用具を使うことだけがノーリフティングケアではなく、介助者自身の身体の使い方を覚えるのがポイントと考えます。性別・年齢問わず誰でも習得できる技術です。

今回は令和4年度にひきつづき2人目のリフトインストラクターが誕生しましたのでご紹介します。

○リフトインストラクターとは？

介護リフトを用いて介護施設の環境改善を行える人材であることを証明する資格で、取得にはリフトリーダー養成研修修了と筆記・実技試験の合格が必要です。

○目指したきっかけは？

リフトを導入し、業務の中で使用はしていましたが今まで以上に利用者様に対して効果的にアプローチをする事を目指したのがきっかけです。

○目指して大変だったことは？

一口にリフトと言っても種類が多く操作方法の習得、特に各利用者様に合わせた吊り具の選定にセンスを問われる気がして大変でした。

○特に意識しているところは？

拘縮・筋緊張の強い方への進行抑制・緩和・改善を目的にリフト・吊り具の選定、技術研修を行い、利用者様の安楽な移乗はもちろん、介助者の身体・精神的負担をなくすための指導を意識しています。

○今後の展望や目標は？

利用者様がどの介助者からも安心で安全な介助を同じように受ける事ができ、介助事故ゼロ、腰痛ゼロを目標にしています。

○職員へのアドバイスは？

全職員が介護リフトの正しい知識と操作スキルを身につけ、ノーリフティングケアを実践できるように取り組んでいきましょう。



井崎リーダー(中央)



清田リーダー

高齢者によくみられる疾患「褥瘡」について



褥瘡とは、一般的に「床ずれ」と呼ばれるものです。

褥瘡は、長期間寝たきりや自分で体の向きを変えられない方、栄養状態が悪い方、皮膚の状態が弱い方がなりやすい疾患です。

特に骨が突き出ている部位は褥瘡ができやすく、寝ている体の向きや姿勢によって部位は変わります。

初期の褥瘡として皮膚が赤くなっている場合があります。指で赤くなっている部位を押しても消えず、そのままの状態であれば、褥瘡と考え、早めに対策をとる必要があります。

完全に褥瘡を予防する事は難しいですが、あわじ荘では入所時より利用者様の全身状態を評価し、褥瘡ケア計画をたて、3か月ごとの見直を行っています。

生活する上でのケアとして、利用者様の状態に合わせて、ベットマットの選択やクッションを使用した姿勢の調整、排泄や入浴後の保湿ケアを行っています。それでも褥瘡ができてしまった場合は皮膚科の医師の診察を受け、早期に治療するように努めています。

医務室より

～免疫力をアップさせる食事～

新型コロナウイルスの流行に加えて、さらに風邪やインフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症が気になる冬の季節。感染症予防対策として、マスクや手洗い、換気などの励行に加えて、免疫力を低下させないカラダ作りも大切です。普段から適度な運動を行い、十分な栄養と睡眠をとるようにしましょう。食事は1日3回規則正しく、いろんな食品をバランス良く食べましょう。

◎免疫力を高める食事のポイント

・からだを作る「たんぱく質」をしっかり摂って、免疫細胞も元気に！

例：(肉、魚、卵、大豆・大豆製品、牛乳・乳製品など)

・「乳酸菌」や「食物繊維」で腸内環境を整えましょう。

例：(ヨーグルト、味噌、椎茸、わかめ、バナナなど)

・「ビタミンA・C・E」で、粘膜のバリア機能を高めましょう。

ビタミンA例：(うなぎ、レバー、緑黄色野菜など)

ビタミンC例：(果物や緑黄色野菜など)

ビタミンE例：(鮭やアーモンドなど)

管理栄養士より

令和5年度

淡路市福祉避難所避難訓練に参加

令和5年11月5日(日)淡路市総合防災訓練に合わせて、福祉避難所開設訓練を実施しました。

「午前9時、南海トラフを震源とする震度6強の地震を観測。市内全域で、多数の避難者が各避難所へ避難している中、一時避難所で生活が困難な方と判断された方1名を、淡路市と福祉避難所として協定締結している特養あわじ荘に搬送する」という設定で訓練を行いました。

訓練を通して、災害時の福祉避難所としての役割を再確認し、いざというときに避難者をスムーズに受け入れできるように、普段から準備しておきたいと感じました。



公用車納車式

昨年11月と今年2月に公用車を更新し、タント、シエータ、キャラバン計4台があわじ荘に納車されました。納車式には利用者様も参加され、賑やかな式典となりました。



家族会からのご支援について

家族会より、わたがし製造機を購入いただきました。秋祭りやその他様々な行事で大活躍！利用者の皆様もとても喜ばれています。

また、用土や肥料、種を購入いただき北の街中庭一面にコスモスを植えました。昨年11月ごろにはきれいな花を咲かせて観賞することができました。



SNS



あわじ荘 ホームページ
フェイスブック、インスタグラムも
是非ご覧ください。



ボランティアについて

あわじ荘では裁縫、カラオケ、大正琴演奏などボランティアの方による様々な応援をいただいています。

趣味をいかしたレクリエーションや簡単な作業など、施設やデイサービスを利用されている方々へのサポーターとして活動してみませんか。

興味やご質問があればお気軽にお問合せください。(担当 総務課)



編集後記

2024年スタートして、あっという間に3月に入りました。ここ数年コロナ・インフル対応など、継続した感染症対策・対応を行いながら、様々な行事や活動について模索し工夫しながら実施する毎日であり、家族様には大変ご不便ご心配をおかけしております。

さて、新年度を迎えるにあたり、2024年は3年ごとに実施される介護報酬改定の年であり、団塊の世代が75歳以上の後期高齢を迎える2025年問題を前に大きく注目されています。2024年度もあわじ荘の運営に関しまして、ご理解とご支援をよろしくお願ひします。

2024年介護報酬改定の主な注目点

- 処遇改善加算の一本化
 - 介護助手人材の活用
 - 介護ロボット・ICT等テクノロジーの活用
 - 科学的介護の推進
 - 介護保険利用料の自己負担2割の対象拡大
 - など
- 編集担当より

発行 / 社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団あわじ荘
〒656-1727 兵庫県淡路市野島貴船229-1
TEL 0799-82-1950 FAX 0799-82-1754
E-mail info_awaji@hwc.or.jp
ホームページ <https://www.hwc.or.jp/awaji/>

※写真の掲載については、ご本人の同意を得ております。